

1. 題材名

「瞬間の美しさを形に ～躍動感を表わそう～」(全4時間)

A 表現(1)ア(ア)(2)ア(ア) B 鑑賞(1)ア(ア)イ(ア) [共通事項]

2. 題材について

(1) 生徒の実態

2学年の生徒は、全体的に明るく活発であり、何事においても真剣に取り組む生徒が多い。美術科の学習でも、課題の内容や方法がわかると、熱心に取り組む姿が見られる。進級して新しい学級となり、林間学校への取り組みを通して集団づくりを進めているところである。

表現の学習では、設定されたテーマを理解し、用具を工夫して用いながら取り組むことができる。鑑賞では、自分の言葉で記述したり、友だちの意見に興味を持って聞いたりすることができる。このような実態をふまえ、試行錯誤を繰り返しながらよりよい表現を追究する態度を身につけさせたいと考えている。

表現については、限られた色で混色する活動を通して色の特徴について整理したり、身近なものを基に形や色彩を構成して表現したりする活動を通して、形の単純化や色の持つイメージについて注目し、作品に表したりしてきた。

(2) 授業について

この授業は、今まで自分が経験してきた活動を振り返り、美しいと感じる動きの瞬間を主題として、体の動きをシルエットで、そして感情の動きを形や色彩で発想、構想し、絵の具を用いて表現するものである。まず、印象や感情を形や色で表わした作品を鑑賞し、表現の工夫に触れる。次に、自分の経験を振り返り、強く印象に残っている瞬間を書き出す。最後に、その瞬間において感じたことを主題とし、シルエットで表わした自分と、色や線、塗り方を構成して表現する。

本題材は、これまで生徒が取り組んできたり感じたりしたことをテーマとして設定することで、主題を生み出しやすいと考える。また、自分をシルエットとして簡略化して表現したり、色や線、塗り方など多様な表現ができる絵の具を用いたりすることで、より自分のイメージに近づけることができる。さらに、最初に鑑賞の機会を設定することで、表現の工夫に触れ、イメージを膨らませるきっかけとすることができると思う。

指導にあたっては、今、自分が取り組んでいることやそのとき感じたり考えたりしていることについて注目できるように、ワークシートを工夫する。また、表わしたいイメージを表現できるように、試行錯誤する時間を十分に確保する。さらに、多様な感じ方に触れることができるように、相互鑑賞の機会を設定する。

3. 全体研究と関わって

全体研究では、今年度から『新たな世界を主体的に創造する生徒の育成～「見方・考え方」を働かせた学びを通して～』という主題の基、研究を進めている。

これを受けて美術科では、次のような生徒を目指したいと考える。ひとつは、身の回りの形や色彩などの働きに気付いたり、よさや美しさを感じ取ったりすることができるような、造形的な視点をもった生徒である。もうひとつは、表現と鑑賞の指導の関連を図る中で、造形的な視点を基にどのような考え方で思考するかを生徒自身が理解し、自覚できることである。

そのために、題材の指導計画を見直し、造形的な見方・考え方を軸にして、育む資質・能力を明らかにすることとする。また、造形的な見方・考え方を働かせた学びによって育成された資質・能力を見取ることができるような手だてを工夫することとし、今年度は、題材構成とワークシートに重点を置いて取り組む。

4. 学習指導要領上の位置づけ

A 表現

- (1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。
- ア 感じとったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
- (2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。
- ア 発想や構想したことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (ア) 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。

B 鑑賞

- (1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。
- ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。
- イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (ア) 身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎと自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕

- (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること
- イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

5. 題材の目標及び題材の評価規準

(1) 題材の目標

自分の経験やそのとき感じた思いを基に主題を考え、形や色彩を発想、構想し、絵の具で表現することができる。

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・色や筆づかいが感情にもたらす効果を理解している。 ・主題に合わせて形や色彩を工夫して躍動感を表現している。	・作品のよさや美しさ、表現の意図と工夫について考えるとともに、躍動感にかかわった主題を生み出し、形や色彩、イメージなどの造形的な視点を基に、構想したり、表現したりしている。	経験したことなどを表現することに関心をもって、主体的に主題を生み出し、表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

6. 題材の指導計画（全4時間）

次	時数	学習活動	評価規準	評価方法
第一 次	4	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験を基に、「印象的な瞬間の躍動感」を表現することを知る 瞬間や感情を形や色彩で表現した作品を鑑賞し、表現の工夫に注目する 	<input type="checkbox"/> 知 <input type="checkbox"/> 思 創造的な表現の工夫を感じとっている	<ul style="list-style-type: none"> 活動観察 発言 ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> これまで経験したことと、そのとき感じた思いなどを書き出す 書いたことを手がかりに、自分をシルエットで表わしたり、そのときの感情を形や色彩で表わしたりする 	<input type="checkbox"/> 思 経験からイメージを膨らませたことなどを基に主題を生み出している <input type="checkbox"/> 思 主題を基にイメージを膨らませて構想を練っている <input type="checkbox"/> 知 一瞬の躍動感を、シルエットや色の配置を工夫して表現している	<ul style="list-style-type: none"> 活動観察 発言 ワークシート 活動観察 作品 ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> 制作した作品について振り返る 	<input type="checkbox"/> 知 <input type="checkbox"/> 思 自分や友達の商品を見て、表現の工夫を感じとることができる	<ul style="list-style-type: none"> 活動観察 ワークシート

※全4時間中、1時間目を導入、2時間目および3時間目（本時）を展開、4時間目をまとめとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は題材全体を通して評価することとする。

7. 本時の授業

(1) 日 時 平成31年6月29日（土）

(2) 対 象 2年1組生徒 男子 20名、女子 20名 計40名

(3) ねらい

・形や色彩を用いて、自分の経験した躍動感を表現することができる。

(4) 本時の展開 (3/4)

時間	○学習活動 ・活動の内容、指導のポイント及び留意点	評価			指導上の留意点
		知	思	主	
導入 5分	○本時の学習内容について知る ・作品の背景を絵の具で制作し、シルエットと組み合わせて、ある瞬間の躍動感を表現すること ○本時のねらいを知る。 ・経験を基にイメージを膨らませて、躍動感を表現する			○	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容やねらいについて簡潔に伝えることで、生徒自身が理解して取り組むことができるようにする <div style="text-align: right;"><input type="checkbox"/>課題設定</div> <ul style="list-style-type: none"> 「①シルエットの配置を考える②背景を制作する」と板書する

<p>展開 40分</p>	<p>○背景を形や色彩で表現し、シルエットと組み合わせて躍動感を表わす ・前時に構想を練った気持ちの色や、動きを表わしたシルエットを用いて表わす ・絵の具で表わすときには、混色や筆づかいでもイメージできるよう工夫する</p>	<p>◎</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>・前回までに表現したものを生かすことを伝える ・机間指導の際に、表現したいことや工夫したことについてやりとりを行って思考を深めるようにする</p> <p style="text-align: right;">[表現]</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>○まとめ ・数人の生徒に感想を聞き、学習を振り返る</p> <p>・ワークシート，制作物の提出</p>	<p>○</p>		<p>○</p>	<p>・躍動感という感情を形や色彩で表現する中で考えたことや気づいたことなどについて全体で共有できるようにする ・次回，制作したものを相互鑑賞することを伝え，本時の気づきを次回に生かせるようにする</p> <p style="text-align: right;">[自己省察]</p>